



東部教育事務所社教便り『社窓』

No.27 (平成26年11月)

所在地：安芸市矢ノ丸1-4-36

TEL：0887-34-3591 (百々)

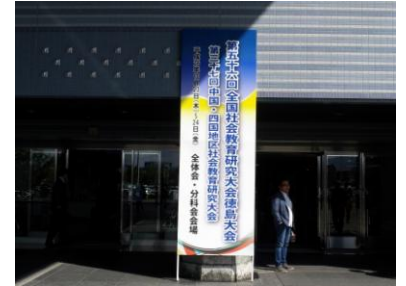
FAX：0887-34-3592 (前田)

E-mail：310304@ken.pref.kochi.lg.jp

第56回全国社会教育研究大会徳島大会 第37回中国・四国地区社会教育研究大会

10月22日(水)から24日(金)にかけて、徳島県において「第56回全国社会教育研究大会徳島大会 第37回中国・四国地区社会教育研究大会」が開催されました。高知県からは53名の参加があり、全国で2位の参加者数でした。(東部地区からは香美市・香南市より8名の参加がありました。)

現在、日本では少子高齢化に伴い様々な地域課題が顕在化すると同時に、地域コミュニティそのものの崩壊が危惧されています。そこで、この大会では、「共に支え 互いを認め合いながら豊かに生きる社会の創造」を研究主題に掲げ、住民同士が共に支え合う温かい社会を再構築していくことを目標に、全国の社会教育委員・社会教育関係者等が一堂に会し、各地域の教育活動に関する熱心な報告・情報交換等が行われました。



<会場>

アスティとくしま

<大会内容> (抜粋)

- ・記念講演 「自分の舞台の活かし方」
株式会社いんどり代表取締役社長 横石 知二
- ・シンポジウム テーマ 「防災でつながる地域の絆」
～学校・家庭・地域の連携ですすめる防災生涯学習～
- ・分科会 ①「学校を支える」・・・地域ぐるみで学校を支援する方策
②「家庭を支える」・・・家庭教育力の向上を図る支援のあり方
③「地域社会を支える」・・・地域の活性化を図る社会教育委員の役割
④「地域ぐるみで支え合う」・・・防災・減災のまちづくり
⑤「集い支え合う」・・・社会教育施設等を核にした地域の絆づくり



記念講演では、「葉っぱビジネス」等で全国的に有名な上勝町の取組が発表され、町を活性化させるための方策や事業を成功に導くための秘訣、仕事を行っていく上での心構え等を、横石さんの成功体験や失敗談を交えながらユーモラスに語っていただきました。高齢化が進む町を、高齢者が活躍する元気な町に変貌させた横石さんの取組に、会場からは大きな賞賛の声が上がっていました。（ちなみにこの横石さんの活躍は、2012年に公開された「人生、いろどり」という映画にもなっています。）

分科会では、上記の①～⑤のテーマについて、全国各地の市町村から様々な取組が発表されました。各分科会場では、取組発表後、少しでもわが町の社会教育を充実させようと、意見や質問が飛び交っていました。少しその内容を紹介したいと思います。

<第2分科会の内容>・・・（抜粋）

〔鹿児島県いちき串木野市 「家庭教育支援チーム（ほっとルーム）」の取組〕

* 文部科学省の「訪問型家庭教育相談体制充実事業」の活用

1 家庭教育支援連絡協議会の設置

地域における家庭教育支援のニーズ、目標設定、本事業の取組の検証等について協議するため、教育長を会長として家庭教育支援連絡協議会を設置した。委員は、教育長・小学校長・小学校PTA代表・地域公民館代表・婦人会代表・民生児童委員代表・関係各課代表等で構成されている。



2 長子（最初のお子さん）家庭の訪問

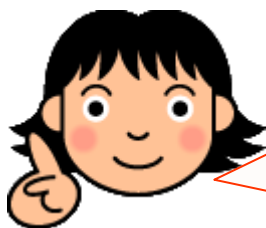
平成21年度に、支援員による小学校1年生の長子家庭訪問を開始。学校や家庭での子供の様子や悩みなどを聞いたり、子育てに関する情報提供を行ったりしている。保護者からは子育てに関する率直な声を聞くことができ、必要に応じて簡単なアドバイスをしている。訪問後は学校と情報の共有化を図っている。

3 出前サロン「おあしす」の開設

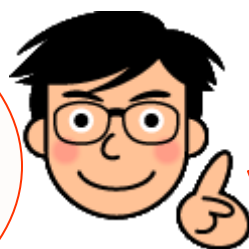
「おあしす」とは、支援員が学校に出向いて行う、出前型の相談活動である。低学年の保護者だけでなく、他学年の保護者との相談も行い、保護者が利用しやすいように、学級PTA時に合わせて実施している。

4 情報誌「ほっとルームだより」の発行

<参加者の声>



学校・地域・家庭・行政の連携がうまくとれていることが、この発表から感じられた。



支援が必要な方に、アウトリーチ（手を伸ばす）の取組ができている。この取組を参考にしていきたい。

来年は全国大会が大分県、中・四国大会が山口県で行われます。社会教育関係者の皆さん、是非どちらかの大会に参加して、各地域の社会教育に対する「熱」を感じてみてください。

第29回高知県連合婦人会スポーツ大会

10月17日（金）、第29回高知県連合婦人会スポーツ大会が、春野総合運動公園体育館で行われました。

当日は和気あいあいのムードの中、心と体の健康づくりと地域活動の活性化を目指して、各地区代表選手が「高知家おもてなし」・「チーム対抗リレー」などの種目で競い合いました。



<高知家おもてなし>



「高知家おもてなし」は、2人1組のメンバーを5組つくり、右側の方が高知家ののぼりを持ち、左側の方が赤ちゃんからおばあさんになるまでの衣装（前掛け・スカート・杖など）を着て走るという競技です。1組目から5組目まで、コーン役として座っている役員の方に、それぞれがおもてなしの心を持ってお土産を届けるという設定になっています。

<チーム対抗リレー>



「チーム対抗リレー」は、バレーボールをつきながら走り、リレー方式で次の人にバトンタッチしていくという、純粋にスピードを追い求める競技です。予選・準決勝・決勝と行われ、各チームが一番力を入れる競技です。

（その他にも、平和の泉や瀬戸大橋というユニークなネーミングの競技が行われました。）

体育館内には、笑い声・歓声・声援・悲鳴など様々な声が入り乱れ、とても楽しいひと時を過ごしました。

開会式での尾崎知事のあいさつの中に、「高知県を元気にするためには、女性の活躍は欠かせません。」という言葉がありました。今日のスポーツ大会を見て、まさにその通りだと感じました。この大会に参加した皆さんは、大会で発揮したような女性パワーで、きっとこれからの高知県を元気にしていってくれることでしょう。

<尾崎知事 あいさつ>

